

令和5年度版原子力白書  
特集案及びスケジュール案について

令和5年12月5日

1. 特集テーマ案

「放射線を巡る安全・安心と利用促進に向けた課題の多面性」

2. 問題意識

原爆や原子力施設の事故など、線量が一定レベル以上の放射線の危険性については、科学的な事実であり、人々の常識となっているが、今般のALPS処理水を巡る国内外からの懸念など、比較的低レベルの放射線についての人体や環境に関する有害度については、日々我々が自然放射線の存在下で生活し、X線などの利用も普及している状況はあるものの、人々の不安は払しょくできておらず、社会に様々な問題を提起している。放射線を巡る人々の不安の背景には、低線量、低線量率被ばくに関するメカニズムが科学的に明確に解明されていないこともあるが、一般の人々にとって、放射線を巡る諸現象やその説明が複雑かつ難解であり、各自が評価・判断するために有している情報も限定的で、情報提供者（国等）の信頼性にも問題があるといった点を挙げるができる。

政府として、原子力利用促進に向けた取組を進める中、改めて放射線を巡る人々の不安やその背景等について、白書の特集で取り上げ、今後の原子力政策の一助となることを狙いとする。

3. 特集構成案

放射線が問題となっているトピックを取り上げ、問題の背景、安全性を巡る様々な立場の意見と客観的な指標（既に安全とみなされているものとの比較等）、社会的メリット・デメリット（経済性含む）等、海外や他分野の事例を盛り込みつつ、多様な側面について分析する。

<トピック例>

- ALPS処理水の海洋放出
- クリアランス物の利用
- 放射線・RIの医療・食品分野等への利用
- 放射性廃棄物最終処分
- 放射線利用によるインフラ検査
- 等

4. スケジュール案

令和5年 12月	定例会で特集テーマを発表
～令和6年3月	定例会で特集に関連したヒアリングを必要に応じて実施
6月下旬	原子力委員会決定、閣議配布

(参考1) 原子力白書発刊再開後の特集テーマについて

- ・平成28年版(平成29年9月14日決定)  
「原子力利用に関する基本的考え方」(「特集」としてではなく、「はじめに」の中で記載)
- ・平成29年度版(平成30年7月5日決定)  
「原子力分野におけるコミュニケーション ～ステークホルダー・インボルブメント～」
- ・平成30年度版(令和元年9月2日決定)  
「原子力施設の廃止措置とマネジメント ～海外諸国の状況及び経験を中心に～」
- ・令和元年度版(令和2年8月31日決定)  
「原子力分野を担う人材の育成」
- ・令和2年度版(令和3年7月27日決定)  
「東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故から10年を迎えて」
- ・令和3年度版(令和4年7月28日決定)  
「2050年カーボンニュートラル及び経済成長の実現に向けた原子力利用」
- ・令和4年度版(令和5年7月27日決定)  
「原子力に関する研究開発・イノベーションの動向」

(参考2) 全体構成

- 「公表に当たって」、「はじめに」、「特集」、「各章」、「資料編」、「用語集」
- 「各章」は以下の1章～9章(「原子力利用に関する基本的考え方」に基づく章立て)
  - 1章:「安全神話」から決別し、東電福島第一原発事故の反省と教訓を学ぶ
  - 2章:エネルギー安定供給やカーボンニュートラルに資する安全な原子力エネルギー利用
  - 3章:国際潮流を踏まえた国内外での取組
  - 4章:国際協力の下での原子力の平和利用及び核不拡散・核セキュリティの確保
  - 5章:原子力利用の大前提となる国民からの信頼回復
  - 6章:廃止措置及び放射性廃棄物の対応
  - 7章:放射線・ラジオアイソトープの利用の展開
  - 8章:原子力利用に係るイノベーションの創出に向けた取組
  - 9章:原子力利用の基盤となる人材育成の強化